



KUMAMOTO

YMCA NEWS

THE KUMAMOTO
YOUNG MEN'S
CHRISTIAN
ASSOCIATION

No.530

2016

8

屈託ない表情。初対面で話しても距離を感じない。微笑みが絶えず、優しさが伝わってくる。あたたかい太陽の光が注ぐ宮崎出身と聞くと「なるほど」と思ってしまう。しかし、次の言葉で芯の強さが垣間見えました。

「大学を休学して、タイのパヤオセンターで一年間ボランティアをします」。

熊本大学法学部3年生の高山未来さんがYMCAに出会ったのは大学入学直後。YMCA国際ユースボランティア(以下、国際ユース)を募集するポスターを学内で見たのがきっかけです。「勉強ばかりしていた」という高校時代の反動か、大学生になったら社会の一員として地域や国際協力に関わりたく強く思っていたそうです。



今こそ、未来に向けて行動したいです。

一枚のポスターから広がっていく世界



今年2月末から3月初めに行われた熊本YMCAタイ・スタディツアー。このツアーではエイズ孤児施設や国境近くにある麻薬密輸地帯を訪ねたり、少数民族のアカ族の村でホームステイをしたり…。「これまでも貧困などについて勉強してきたつもりでしたが、現地に行き、直接自分で経験して感じるのが大切だと思いました。自分が育ってきた境遇と、現地の子どもの境遇があまりに違うこと、それを知らずに日本で過ごすことの恐さを感じました」。

「このままでいいのか。自分は何がやりたいのか? 何ができるのか? 自分にもできることがあるんじゃないか」と自問する時間が続いたといいます。

最後に背中を押したのは熊本地震だった

地震が起きてすぐ、頭をよぎったのは「自分は大丈夫」。「タイ・スタディツアーで水道も電気もない暮らしを経験したから、そう思えたんだと思います」。大学が1カ月の休講を余儀なくされる中、支援活動ボランティアに加わりました。「自分にできることをしなければ…」と思えたのは、国際ユースでの経験が大きかったと思います。

熊本市災害ボランティアセンターでは、全国から集まるボランティアと被災者、地域とをマッチングさせる役割を担当。阿蘇YMCAでは、他のユースのメンバーとともに、全国から支援に訪れたYMCA関係者の受け入れをサポートしたり、避難所で高齢者の話に耳を傾けたりしました。

「YMCAでは、日頃から培われていた地域のネットワークを活かし、スタッフの皆さんが被災者に寄り添ってニーズを聞き出し、応えようとする姿に感銘を受けました。今後自分が支援活動に携わる場合の勉強にもなりました」。「タイ・スタディツアーの時は“ボランティアをしに行く”と考えていました。でも今は、“互いに助け合う”という気持ちが大切なんだと思っています」。

6月、横浜YMCAがタイ・パヤオセンターの研修生を募集していることを知りました。「地震の経験に後押しされ、若い今しかできない経験を積みたいという気持ちが強くなりました」。



熊本の未来に役立ちたい

「YMCAは、私のような夢を持つ若い人をサポートしてくれる場所。私も素晴らしい体験をし、世界が広がっています」。様々な経験を重ねる中で、再び自分の将来について考えるようになりました。「国際協力への関心に加え、地震を受けて、“熊本のために”という気持ちも強まりました」という高山さん。「今は、公務員か民間かにかかわらず、自分の関心があることをベースに考えていきたい」と語ります。

「体験してみて分かることがきっとたくさんあるはず。タイから帰ってきたら、熊本のためにできることがもっと増えていると思います」。

出発を間近に控えて、今の心境を尋ねてみました。「不安半分、期待半分です。子どもたちやYMCAの期待に応えられるか考えると正直、心配です。タイ語もできないし」。

「でも」と続けます。「先日、パヤオセンターの子どもたちとスカイプで話げできました。私のことをすごく楽しみに待っていてくれたんだな、と胸が熱くなって、やっぱり楽しみです!」。底抜けな前向きさが、聞き手まで元気にさせてくれます。出発は今日19日。高山さんから見えるタイとはどんな世界でしょう。

YMCAニュースでは、これから1年間、高山未来さんのタイでの活動の様子を不定期でお伝えしていきます。

知らないことの恐さ

国際ユースでは上通YMCAを活動の拠点にして県内の大学生ら同世代のメンバー20人ほどが、社会問題や国際的課題について話し合い、主体的にアクションプランを組み立て、実行につなげていきます。「話し合いの時は真剣です。去年のテーマは『貧困』。『貧困って何?』みたいな話って、なかなか友人との日常会話ではできませんよね。これができるのが国際ユースの魅力のひとつです」。

冒頭の「パヤオセンター」とは、タイ・バンコクYMCAが運営している児童保護シェルター。人身売買等の危機にある子どもたちの保護と自立、教育支援を行う施設です。大学入学当初、高山さんは公務員を目指していました。同級生の多くが、公務員試験対策を始める中、大学を休学し、海外ボランティアに身を投じる決断の背景には、きっかけとなる、ある出来事がありました。

Pickup

上通日本語学校
夏期集中コース
ラフティングに挑戦



YMCA学院
日本語科の留学生が
山鹿灯籠踊りを体験

大邱YMCA職員が
熊本で短期研修。
八千代座を見学



Information 行こう 見よう 深めよう

留学生たちが想いを語る 日本語スピーチ大会

国際
×
学ぶ

YMCAで日本語を学ぶ留学生によるスピーチ大会を開催します。
スピーチのテーマは、一人ひとりが今、伝えたいことや考えていること。この日に向けて練習を重ねます。

今回は、YMCA学院日本語科(全日制)に通う学生の他、上通日本語教室の3カ月コースの受講生も初めて参加します。学生たちの学習の成果をぜひご覧ください。

- 日 9月3日(土) 10:00~12:00
- 場 東部YMCAレクリエーションホール
- 内 予選を勝ち抜いた10名の留学生によるスピーチ
- 申 事前の申込みは不要
- 問 東部YMCA TEL 096-382-6661



帯山西地域コミュニティセンターで行われた
今年のスピーチ大会

みんなの力で熊本に元気を!笑顔を!! みなみYMCAサザンフェスタ

楽しむ
×
チャリティ

地域へ開放する、みんなのお祭です。益金は、①熊本地震復興支援、②ミャンマーモガウンYMCAエイズ孤児支援、③国際協力青少年育成年末募金、④地域活動、⑤青少年育成等のために使われます。今回は、6月に全国の高校を対象に行われた日本ダンス大会で優勝した鎮西高校ダンス部が登場!素晴らしい演技を披露してくれます。



- 日 9月4日(日) 11:30~15:00
- 内 ステージ発表、のみの市、ゲーム、模擬店、抽選会など
- 他 前売りチケット販売中。前売特典として、1シート毎に「おたのしみ抽選券」が付きます。



大学生・専門学校生が活躍 熊本YMCAリーダー会メンバー募集

交流
×
学ぶ

熊本YMCAリーダー会は、国際協力、子どものための野外教育やスポーツ指導に関わり、ボランティア活動を展開するグループです。主に、県内の大学生・専門学校生で構成されています。

こどもスポーツプログラム (水泳・体操・サッカー・新体操)

- 内 幼児・小学生対象のスポーツスクールの指導補助
- 場 中央・みなみ・ながみねファミリー・むさしYMCA
- 日 平日15:30~20:30 3~5時間程度(土曜日は午前中から活動しています)
- 問 みなみYMCA TEL 096-378-9370 担当/竹下

子どもたちの野外活動

- 内 キャンプの中で「リーダー」と呼ばれ、子どもたちと思い出と感動を共有していくボランティア
- 日 日帰りキャンプ(毎月1回 土曜日) / 宿泊キャンプ(毎月1回 土・日曜日) / 夏休み・冬休みなどの短期キャンプの登録制度もあります。
- 問 みなみYMCA TEL 096-378-9370 担当/竹下

発達障がい児支援

- 内 専門職員の指導のもと、「発達障がい」というスペシャルニーズのある子どもたちの体操・水泳・野外活動を支援するボランティア
- 場 中央・みなみ・ながみねファミリーYMCA
- 問 みなみYMCA TEL 096-378-9370 担当/竹下

国際ユースボランティア

- 内 留学生交流、ボランティア活動、ディベートなど定期的で開催中
- 場 主に上通YMCA
- 日 定例ミーティング / 毎月第2土曜日 17:00~、第3金曜日 18:30~
- 問 熊本YMCA企画・情報・国際部 TEL 096-353-6397 担当/工藤

リーダーの声

大好きな水泳で“恩返し”

菊川 泰世さん
ラーメンリーダー
熊本市立必由館高等学校2年



今年2月、YMCAから「ボランティアリーダーになりませんか?」というハガキが届きました。ボランティアに興味があり、小学2年から6年までYMCAで水泳を教えてもらったので「恩返し」したくなって。子どもの時は「リーダーって大変そう」と思っていたので、挑戦してみたい気持ちもありました(笑)。

今は週3回、小学生や発達障がい児のクラスで、先輩リーダーと一緒に活動しています。全体を見ながら、一人ひとりの様子も見なければいけないので、本当にとても大変です! でも、最初は泳げない子どもが一生懸命頑張って、泳げるようになってとてもうれしくなります。また、リーダーからは子どもたちへのアドバイスや接し方などを教えてもらって勉強になりますし、他のリーダーが頑張っている姿を見ると、自分も頑張らなくちゃと思います。

高校でも水泳部に入っています。大好きな水泳で人の役に立てるから、高校での勉強とリーダー活動を両立させたいと思っています!

数多くの出会いは貴重な宝物

小山 佳歩さん
ひつじリーダー
九州ルーテル学院大学
人文学部心理臨床学科2年



リーダーになったきっかけは、今年の夏に大学の授業の一環で参加したYMCA主催のキャンプ。職員の方に声をかけられ、「私で力になれるなら」と考えて引き受けました。

現在、大学の講義が早く終わる木曜に、水泳クラスで小学校低学年10名ほどのグループを担当しています。出欠確認や水泳の指導ほか、子どもたちの命を預かる大切な役割を任されていて、最初の頃は毎回緊張するばかりでした。しかし、指導方法やサポートする時の言葉の選び方などを考えながら接するうちに、子どもたちから慕ってもらえるように。子どもたちが懸命に努力して目標を達成すると、自分のことのように感動します。

いつも楽しみに参加してくれる子どもたち、私を信頼してくださる保護者とYMCAの職員、刺激をくれる他のリーダー…。リーダーになってからの数多くの出会いは、大学生活だけでは決して得られない宝物です。リーダーとしての経験は、必ず自分の成長につながりますよ!

R | E | P | O | R | T

避難所に元気を いぬネコ家族写真展開催

熊本県内最大の指定避難所となっている益城町総合運動公園では、犬や猫と人間の絆をつなぐNPOと支援者が「いぬネコ家族プロジェクト」をスタート。地震発生からおよそ1カ月後の5月16日(月)、「ましきまちワンニャンハウス」としてハウスやドッグランが敷地内に設置されました。

ここに暮らす犬や猫たちの多くはこの避難所に避難している人々の大切な「家族」。専門トレーナーがボランティアでケアにあたっています。中には建物倒壊

から1カ月半後に救出された猫2匹も。

地震発生3カ月を機に、被災した動物たちが元気に過ごしている様子を見てもらい、避難者に元気になってもらおうと、7月10日(日)から25日(月)まで「いぬネコ家族写真展」が開催されました。支援者や飼い主、企業の協力を得て、犬27点、猫11点、計38点の写真が益城町総合体育館のロビー等に飾られました。初日には早速動物たちの写真に見入る人も。多くの避難者を和ませてくれました。



いのちを守る 水上安全キャンペーン&みんな泳げる25M運動

YMCAでは、海や川、プールでの水遊びの機会が増える夏に、子どもたちが安全で楽しい夏を過ごせることを願って、様々な活動を展開しています。

水の事故を未然に防ぐための知識と技術を身につける「水上安全キャンペーン」では、洋服を着たまま水に入る着衣泳体験を実施しています。普段、水着で水泳をしている時とは違う体の動かしにくさや、水の事故から身を守る方法を体験し学びを深めます。この活動は、YMCAの水泳教室の他、地域の保育園や幼稚園、小学校でも水上安全講習会として毎年行っています。6月8日(水)に体験した水泳教室の子どもたちからは「重くて泳ぎにくかった」「ベタベタ体に服がくっついて気持ち悪い」などの声が聞かれました。

全国YMCA水上安全の日である6月19日(日)は、みなみYMCA、ながみねファミリーYMCAで「みんな泳げる25M運動」と称した水泳教室を実施。地域の小学校に通う水泳に苦手意識を持つ子どもたちが対象で、田迎西小学校、画図小学校の児童が各20名、託麻南小学校の児童40名が受講しました。最初は、水が苦手なこと、またクロールの息つきができないことから

不安も多かった子どもたちでしたが、終了するときには、「息つきができた!」「楽しい!」「学校の授業が楽しみ!」など、達成感に満ちた多くの笑顔を見ることができました。

同日、むさしYMCAでは、「親子水上安全講習会」を実施し、子どもたちだけでなく保護者の皆さんも含めた約50名の参加者と一緒に、いざという時の行動を実践。安全について理解を深めることができました。

今回、震災で多くの被害を受けた益城町地区の各小学校でも「みんな泳げる25M運動」と称して、水泳指導の出張授業を行っています。益城町立津森小学校では、4年前からこの取り組みをスタートし、今年は益城町の全5小学校で実施しました。

また、6月19日(日)と7月3日(日)には、益城町の小学生をながみねファミリーYMCAに招き、プールを開放しました。運動・遊びを通してストレスを発散してもらうことが目的。水泳ができる喜びを多くの子どもたちと共有できたことをうれしく感じています。

むさしYMCA 山田 幸平



YMCA水泳教室で行った着衣泳体験



津森小学校での水泳指導



総主事の
タラコ
トン Vol.28

愛の実践

先日、1927年生まれの父が、避難所運営に参画している孫を励ましたいというので、一緒に益城町総合体育館を訪問しました。地震前からYMCAで体操の講師をしていた息子が、発災後から避難所の運営サポートに関わっているのです。

体育館に向かう道筋には、今も地震直後と変わらぬ姿の被災家屋が多く存在しています。壊れた家屋が風雨にさらされた様子を見た父は、18歳の青年期に戦後を迎えた頃の日本の風景を思い出したと言いました。

熊本YMCAの50年史には戦後の熊本の様子について次のように記載されています。

“あの時代の混乱は、政治、経済、社会の何れにもいつ果てるとも知れない虚脱と欠乏の状況が襲いかかり、我が国の困難からの脱却は、甚だ遠いと思われた。事実、例えば、1946年3月の熊本日日新聞の報道では「困窮する県民生活」と題して、次のような要旨の記事がある。「県では戦災、引き揚げ者などインフレにあぐら生活困窮者の実態調査をした。これによると、生活困窮者の総世帯数は197,050世帯に上っていることが明らかになった。このうち援護なしでは生活できない家族が12,282世帯45,640人」とある”。

父の目には、現在の被災地の姿が、脳裏に焼き付いた当時の様子と重なったようでした。

今回の地震は、建物だけでなく多くのコミュニティを破壊しました。これまでの生活を取り

戻すまでの苦悩は計り知れません。大きな心の傷が、今なお人々を苦しめています。被災者と共に、熊本と共に生きるYMCAとして、被災者に寄り添った災害支援活動を計画、実行していきます。

この夏は、全国からYMCAのユースや関係の大学、団体・企業のボランティアの受入れを行い、瓦礫の撤去や家屋の片づけ・家財の運び出し、農業の再興など、ボランティアとして地元の方々と協働し、再建を支援します。また、子どもたちに対してはグリーンケアキャンプやデイキャンプなど様々な体験を通して、心身の健康を培います。高齢者の生活支援、健康維持、体調管理も重要です。

戦後の混乱から、少しずつ前進して豊かな熊本が生まれました。新たな困難の中にある今、YMCAは、被災された一人ひとりが再び笑顔と元気を取り戻すことを願い、愛をもって、できる限りの活動を行ってまいります。

t a l a n t o n

Snap

読者の皆さんから寄せられた
写真を紹介します。



『強く生きる』しょうた
@タイ(チェンライ パーディアアカ村)
タイ・スタディツアーにて。タイヤや使い古したサッカーボールくらいしか遊び道具がない中、輝く笑顔を見せる子どもたちが、私の目にはとても強く映ったのです。



『炒飯もつくよ』のり @中央YMCAウエルビー
YMCA学院の学食。日替わりランチのちゃんぽんが好き。



『キャンプ楽しかった』はるみん
@Frost Valley
フロストバレーYMCAのリーダーとキャンプ後にスキーをして楽しみました!



『私の大好きな熊本城』
ギヤヌ(YMCA学院日本語科
留学生/ネパール出身)
@熊本城
日本が大好きです。熊本がんばろう!



『たくさん集まりました』レゴ
@熊大附属中学校
タイの里親運動支援のためのペットボトルキャップ回収運動に取り組んでいます!



『スイマー』YUTO @ながみねファミリーYMCA
スイミングフェスティバルで一生懸命泳ぐ息子。目標に向かってこれからも頑張れ!!

写真募集中

YMCAの活動の様子や思い出を
写した写真を募集します。

応募は
こちら▶



熊本YMCA 震災復興支援募金

被災者と共に、熊本と共に生きる熊本YMCAとその復興支援活動にご支援をお願いいたします。

募金期間 2016年7月1日～2017年4月30日

皆様の募金は、以下の活動に用います。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1.被災地域の緊急支援 | 2.子どもたちのケア |
| 3.高齢者のサポート | 4.交流サロン・プログラム |
| 5.被災学生・留学生のための奨学金 | |
| 6.防災・心のケア研修 | 7.被災YMCAの復興 |

募金方法

①お近くのYMCAに直接お持ちいただくか、下記銀行口座にお振込みください。

▼振込先

肥後銀行(0182) 新町支店(103)(普)口座番号1296939
口座名義 災害支援緊急募金 理事長 福島貴志(フクシマタカシ)
※住所・氏名・電話番号もお忘れなくご記入ください。
※お振込みの際は、お名前の前に「熊本地震」とご記入ください。

②Yahoo!ネット募金ではクレジットカードやTポイントでのご寄附が可能です。



熊本YMCAへの寄付金は、税制上の優遇が受けられます。

お問合せ先

熊本YMCA本部事務局(緊急災害対策本部)
TEL:096-353-6397

わたしと聖句

ヨハネによる福音書 12章24節

はつきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。

一粒の麦

人は、どうすれば幸せになれるのかと探し求めていると言えよう。それは、裏切られないもの、偽りでないものを求めていると言えます。しかし、世の中には、絶対裏切られないものや決して変わることはないものなどありません。これこそ待ち望んだものだと期待すればするほど、裏切られたり、偽りだったりした時のショックは大きいものです。それは、人と人との間柄にも言えます。なぜかという、人はすべて罪人であり、「正しい者はいない。一人もない。悟る者もなく、神を探し求める者もない。」(ローマ3:10~11)と聖書にあるとお

りです。

罪人である私たちは、どんなに良い人間であろうとしても、生まれながらの罪の性質を持ったままでは、いつかその罪の性質が姿を現します。そのような罪人である私たちを罪から救い、神の愛を受けて生きることができるようイエスは一粒の麦となつて、十字架にかかつて死んでくださいました。

神は私たちを愛するがゆえに、ひとり子イエス・キリストをこの世に遣わし、そのお方を十字架にかけて、私たちのすべての罪を、そのお方に背負わされたのです。それによって、この救い主イエス・キリストを信じる人は、どんな人でも罪が赦され、神の愛を受けて生きることができるようになりました。主イエスの十字架の死は、人がそれを信じることによつて、復活の命が与えられるという多くの実を結ぶものとされました。イエス・キリストによる罪からの救いにあずかつて生きてゆきたいと願います。

日本バプテスト連盟 人吉キリスト教会
永瀨 一隆

発行所 / (公財) 熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人 / 岡 成也 編集人 / 富森 靖博
定価60円 購読料は会費を含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2016年度基本聖句

コリントの信徒への手紙Ⅱ 13章11節
思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、
愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。